



日本紅斑熱による死亡患者の発生について

呉市内の医療機関から呉市保健所に、日本紅斑熱の患者発生の届出(呉市で本年11例目、死亡は1例目)がありました。

日本紅斑熱はマダニを媒介とする感染症であり、感染源となるマダニは、春から秋にかけて活動が盛んになります。マダニに咬まれない予防策について周知協力をお願いします。

1 患者の概要

届出年月日：令和5年10月4日

住 所：呉市内

年齢・性別：90歳代女性

症 状：発熱，DIC（※），肝機能異常

経 過：10月2日入院，10月4日死亡

そ の 他：刺し口は確認できず。農作業あり

※DIC：^{はしめせい}播種性血管内凝固症候群。全身に小さな血栓をつくることによる臓器障害と、顕著な出血傾向が同時にみられる状態。

(令和5年10月5日現在)

年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
患者発生数	10	14	20	18	11
うち死亡	0	0	0	0	1

2 感染予防対策

(1) 日本紅斑熱とは

リケッチア・ジャポニカ (*Rickettsia japonica*) と呼ばれる病原体を持ったマダニ類に刺咬されることによって感染する病気です。ヒトからヒトへの感染はありません。リケッチアを保有するマダニに咬まれて2～8日の潜伏期間後、頭痛、悪寒を伴い急激に高熱(38～40℃)が出た後、やや遅れて、全身に米粒大から小豆大の紅斑が出現します。発疹部にかゆみや痛みが無いのが特徴です。

(2) 感染予防対策

マダニに咬まれないようにすることが重要です。

- 屋外活動時は長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、皮膚の露出を少なくする。
- 屋外活動後は、体や服をはたき、マダニに咬まれていないか確認する。
- 吸血中のマダニに気がついた際、無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿するなどの恐れがあるため、医療機関(皮膚科など)で処置をしてもらう。
- マダニに咬まれた後に、発熱等の症状があった場合は、直ちに医療機関を受診する。

お願い

報道機関各位におかれましては、感染症法の精神に基づき、プライバシー保護及び風評被害について格段のご配慮をお願いいたします。